

2022 年 7 月 13 日 帝塚山高等学校 3 年生特別授業

帝塚山高等学校 3 年生 64 名の特別授業で、「プレバパ・プレママ教室」を実施しました。担当の仲島先生からご連絡をいただいてから 3 年目、コロナウイルス感染状況はやや増加傾向ではありましたが、何とか学校に訪問し、対面で実施することができました。プロジェクトとしても、対面での実施は 2 年ぶりです。

プログラムの学習目標は、①遺伝学的検査の意思決定を模擬体験し、決定のために倫理的、社会的な課題があることを学ぶ ②遺伝は誰もがもつ共通の課題であること、遺伝情報の特殊性を知り、遺伝学的検査の受検は慎重に行うべきであることがわかる として、ミニレクチャー、模擬検査受検、ディスカッションを行いました。プログラムは、生徒それぞれが結婚し、女子生徒は自分が、男子生徒は奥さんが妊娠していることを前提に、学習を進めます。

ワークブックに沿って、あかちゃんの育ち、出生前検査について、NIPT について学習します。NIPT では実際に受検したご夫婦に伺った意見を紹介し、「自分が検査を受けるときにどのような気持ちになるだろうか」をイメージしてもらいました。

[illegible]

ワークブックの一部

そのうえで、NIPT の模擬検査を受検するかどうかについて、ディスカッションしてもらいました。今回は NIPT を“ダウン症かどうかを調べられる検査”としました。ディスカッションでは、「育てるためには早い段階で得られる情報が有用」「産むなら検査はいらないんじゃないか」「赤ちゃんが心配だから」など、いろいろな意見がありました。迷っている生徒からは「赤ちゃんに病気や障害がわかる検査は NIPT の他にないのですか？」という質問もありました。

ディスカッション後に NIPT 模擬検査受検の意思決定をし、受検すると決めた 34 名の生徒さんには、棒くじの先が赤いくじが陽性(ダウン症の可能性はある)としました。棒くじを引くのも、結果を見るのも、最後まで悩みながら決める様子がありました。

次に、羊水検査について学習しました。本来は、NIPT が陽性の場合、原則全員が受検する検査ですが、今回は、



学習のため、羊水検査についてもそれぞれで意思決定をしてもらいました。

羊水検査は侵襲性が高い検査です。検査について「どのくらい痛いのか」「間違っ
て赤ちゃんに針が刺さってしまうことはないのか」などの質問がありました。ディスカッションでは、「ちゃんとした結果を知りたい」「赤ちゃんや
お母さんへのリスクを考えると受けるのをためらう」「痛い思いをするのは奥さんだから、夫の立場からは意見が
言いにくい」「親なき後のことまで考えて、長期間生活を支えていけるのかをちゃんと見極めて判断する必要がある」などの意見がありました。ディスカッション後に模擬羊水検査を受検すると決めた 9 名の生徒さんは、サイ
コロをふって、検査結果を確認しました。サイコロが 1 の場合は、
陰性(ダウン症でない)、1 以外は陽性(ダウン症であることが確定)
としました。

羊水検査の結果、陽性であった場合、妊娠を継続するか、
赤ちゃんとお別れするかを選択することになります。
プログラムでは、この選択はしませんが、それぞれの心の中で
考えてもらいました。



NIPT は赤ちゃんがお腹にいる実感が少ない時期に採血をし、胎動を感じるころに羊水検査、そして、妊娠の
継続を検討するときには、赤ちゃんはずいぶん大きくなっていることを、胎児のプレートを見ながら振り返りました。
胎動を感じながら中絶を選択する気持ち、赤ちゃんに障害があることをわかったうえで妊娠を継続し、育てる準
備を進める気持ち、どちらも想像してもらいました。これらの決定には、正解はありません。検査には限界があり、
病名は調べることはできても、その子がどのように育っていくか調べることはできません。検査のメリット/デメリット
について、パートナーとしっかり話し合って、納得いく決断をすることが大切だということを伝えました。

学習のまとめでは、ヒトの遺伝的多様性、唯一性について、特徴ゲームで確認しました。今回、代表で特徴
を発表してくれた生徒さんと、10 個の特徴が一致した生徒さんがいるという珍しい状況を経験しました。ヒトの遺
伝子は 22000 種類あるので、全てが一致することは限りなく 0 に近いことを説明しました。また、環境でかわる
特徴もたくさんあります。あなたは世界にたった一人しかいない、あなたの隣にいる人も同じように、世界にたっ
た一人の大切な人、そして、今回、NIPTで調べられる病気だと説明した 13・18・21 トリソミーのある方も同様
に、個性ある一人の大切な人です。

久しぶりの対面授業で、私達もちよつと緊張していて、十
分に皆さんの意見を引き出せなかった部分もあったと思ひ
ます。しかし、それ以上にこの難しい課題に真摯に向き合っ
てくれたこと、疑問やそれぞれの考えを発表してくれた生徒
の皆さんに感謝したいと思います。Web授業のメリットもあり
ますが、直接、生徒の皆さんの個性が感じられる対面授業
の良さを、改めて実感する機会となりました。



皆さんと一緒に撮ればよかったと後悔しつつ
正門の前で撮影しました…

2022 年 8 月 4 日 文責: 森藤香奈子